てんてん新聞

'11.7.No169
発行責任 市岡旦出
0883-88-529

小さいけど「光」がみえる

今だに、特物を作る事が地域の活性化につながる的発想とか、補助金欲ばらすの様に、次々と補助金頼みの事業で、元気な地域の様にみえるイベントが次々と。また住民サイドでも、補助金があるから参加し、なくなれば、知らの顔。すごいのは、ある事業の補助金で、事業の拠点として、個人の家を改築し、専用に使用するなど、合併前とは、なんら変っていない。

そんな中で、小さな事ではあるけれど、光がないわけではない。住民自身の力で、アイデアで何かをやろうとしはじめている事がちらはじめている。

たとえば、**ジャガ芋**

知る人ぞ知る、祖谷のジャガ芋。祖谷地方では「ほど芋」とか「ごうじゃ芋」と呼ばれて、小さいけれど、身がしまっていて、大変うまい！

おでんや煮しめ、そして祖谷では、炭火でじめ焼きし、ミソやしょうゆの実をつけて食べるのが一番うまい食べ方で、昔からご飯の前に何個か食べる習慣があります。

最近では、高冷地の上に椿や猪、鹿の被害が多く、本当に価値が高くなってる貴重品。その「ジャガ芋」を、販売しようというグループが出来ました。「祖谷芋屋」として、ネット販売もしているようです。(www.iyaimoya.com)

「祖谷ほど芋」のブランド名、もうすぐ収穫です

出はじめました。東祖谷だけでも、中上地区西岡さん、京上地区小西さん、若林地区高橋さんの三人。三者共に、自分のお金で、自分の家に手を加え、工夫をして、楽しみプログラムを作って営業をはじめています。

祖谷そば

量は少なくなりつつあります。そばオーナー制は、補助金がなくなり終ってしまいましたが、徳島市内のグループと連携しオーナー制を続けている久保地区岡本さん。自宅を改装し、そば打ち体験も出来るようになり、囲炉裏もあり、大変好評のようです。

また、この地にも、鈍井地区木村さんの文化財指定茅葺きを使った古民家喫茶など、小さな光がちらばりつつあります。

民泊

そらの里協議会という組織で、主に修学旅行の田舎体験で合宿と同時に三泊の予定体験（今は、美馬、つるぎ町等も参加）ではじめてますが、新たな方向として、大人も楽しめる田舎体験として、民泊をはじめる住民も

郷の旗で交流

梅雨の大雨の中、つるぎ町半田西部地区より、元気印の旗がとつ縁で、東祖谷に交流に来て頂きました。

半田西部地区では、地区の皆さんが自らの意志で、東祖谷でやってる元気印の旗活動をやろうと決め、「地域みんなで旗立つ大作戦」として、昨年より活動をはじめています。

東祖谷に一歩踏んで、地域外なではじめ、昨年は祖谷から西部地区を訪ね交流を深め、その後梅の季節に花見に行ったりと小さな交流を続け、今年は西部地区の皆さんが、元気なおばあちゃん達と交流を深めにやって来ました。

悩みはどこも同じ様なものですが、旗を立てることで心の孤独を失くしていこうと、お互い励ましあいました。